



# 最高のピアノしか売らない 最高の調律サービスで ピアノフォルティ株式会社

# FAZIOLI™

Exclusive Distributor for Japan

<芝浦地区所属>  
代表取締役

アレック・ワイルさん

## ◆ 惚れ込んで代理店に

芝浦の港が海運で栄えていた頃の倉庫街にあるビル。もともとはここも倉庫、裏を芝浦運河が流れる。長い階段を上がり、ドアを開ける。そこにハッと息をのむ荘重な世界があった。艶やかに磨かれた木の床、周囲は黒の緞帳で囲われ、天井はやはり黒の吸音板で覆われている。広いもの静かな空間に、置かれているのは8台の美しいグランドピアノである。どれもイタリア製の「ファツィオリ」ブランドだ。

ピアノフォルティ(株)はファツィオリの日本総代理店である。長身でスマートだが、とても気さくなアレック・ワイルさんは「このピアノしか売る気になりません」と笑顔である。すっかり惚れ込んでいるのが一目でわかる。シカゴ出身のアメリカ人、55歳。「人生の半分は海外生活」という。日本に住んでもう17年になる。プラスチック業界のビジネスマンだったが、ピアノ好きが高じて有名なスタインウェイの極東代表をしていた。その時に出会ったのが、ファツィオリである。「音が違いました。これが最高だと思いました」。1年

半前に会社を興した。「日本には、このピアノをきちんと紹介する会社がありませんでしたから」

調律師 越智 晃さんと2人だけの会社だ。信頼するパートナーである。越智さんの肩書きはコンサート・テクニシャン。名高いショパンコンクールの音調整を任されるほどの「世界的な調律師」だ。越智さんもファツィオリにはぞっこんである。「この音に感動しない人はいない。皆、一目惚れですよ」

## ◆ 趣味が仕事でハッピー

このスタジオで弾いた後に、中村 紘子さんは「ピアニストとして人生の中で最も歴史的な一瞬、頭の中の音楽が初めてそのまま音楽になった」と記している。ワイルさんが大事にしているアルバム帳には、クラシックからジャズまで内外の著名なピアニストの感動の言葉が幾つも綴られている。

ファツィオリの歴史はまだ、30年。工学博士であり音楽家でもあるパウロ・ファツィオリが「最高のピアノを」という夢を実現させた傑作だ。製法は昔のまま、職人達の思いがこ

もったピアノだ。1台完成するのに3年かかる。「途中で寝かせることで音が安定し、味も出てくる」。材料も吟味してある。ピアノの命、響板はストラディバリに使用しているのと同じ希少材、赤トウヒだ。年間に製造できるのは、せいぜい100台。日本には飛行機で運ばれてくる。長い期間揺れる船旅は禁物だ。「これ以上、凝った楽器はありませんよ」

価格は小さいものでも1台1千万円弱、大きいものは2千万円を超す。販売するのはグランドピアノだけ、それに調律の技術料と貸スタジオが収入源だ。経営環境は厳しい。「景気は最低ですが、お蔭さまで専門家に人気になっていきますから」とワイルさんは悠揚迫らぬ風情である。

ワイルさんの指が軽やかに鍵盤を弾いた。「音楽いっぱいの方に育ちましたから」。バイオリンもサクソもこなす。腕はセミプロ級だ。

「趣味を仕事にするなんてとてもハッピー。人生楽しんでます」

ピアノフォルティ株式会社/海岸3-2-15/☎ 6809-3534 Fax.6809-3536  
E-mail: info@fazioli.co.jp  
●事業内容などの詳細は、URL: <http://www.fazioli.co.jp> をご覧ください。



●とても気さくなアレック・ワイル社長(左)と技術部長 越智 晃さん/広いもの静かなスタジオには8台の美しいグランドピアノ「ファツィオリ」を展示